

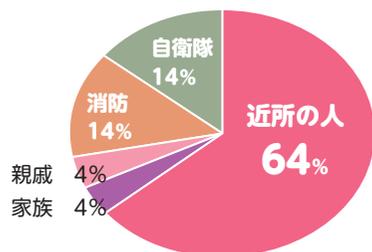
地域全体で防災に取り組もう



大規模災害が発生したとき、公的機関による支援が届くまでの間、近所の人たちが協力して初期消火活動や救出活動に当たらなければなりません。災害時、頼りになるのは地域住民の助け合いである「共助」です。地域に暮らす私たちは、お互いに助けたり、助けられたりする関係にあります。いざというときに備え、みんなで協力しあって地域を守っていくことが大切です。

自主防災組織に参加しよう

人命救助をした人の内訳

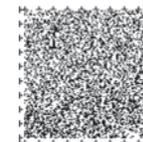
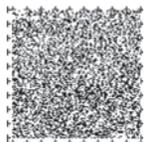


(『1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5) 神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査』宮野道雄(大阪市大) 他 1996年日本建築学会大会学術講演梗概集)

自主防災組織は、地域住民が自発的に防災活動をする組織です。阪神・淡路大震災の際、がれきの下から救出された人の6割以上が「近所の人」によって助け出されたという調査結果もあります。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで自主防災組織に積極的に参加し、災害に強いまちづくりを目指しましょう。

📣ポイント! 近所付き合いから始めよう

共助とは、簡単に言えば「困ったときはお互いさま」の精神で助け合うことです。平常時の地域住民の交流が深ければ深いほど、いざというときの共助の力はより確かなものになります。難しく考える必要はありません。ご近所同士で普段からあいさつを交わし合い、顔見知りになることから始めてみましょう。



消防団を知っていますか

消防団は地域住民によって構成された消防機関で、消防署と協力して消火活動などに当たります。消防団員は、自営業や会社勤めなどの仕事、学業や家事などに従事しながら活動する非常勤特別職の地方公務員です。高齢化などの影響により、近年は団員数の減少が憂慮されている一方で、女性や学生の消防団員が増えています。興味がある場合は、最寄りの消防署に問い合わせてみましょう。



◎消防団の活動内容

平常時	災害時
● 地域を災害から守るための火災予防や防災啓発	● 消防署と連携した消火活動
● AEDの使い方など応急手当ての普及・啓発	● 地震・風水害時の住民の救助・救護、避難誘導
● 各家庭を訪問した防火啓発など	● 台風や集中豪雨時の水防活動など

県と市の職員が合同で「機能別分団」を結成

福岡県内では、平日昼間の消防団員不足に対応するため、県職員と市職員が合同で「機能別分団」(特定の活動、役割のみ実施する分団)を結成、勤務時間内に発生した火災の消火活動や行方不明者の捜索などに当たる取り組みを進めています。県職員と市職員合同の機能別分団は、平成27年(2015年)1月に全国初の試みとして宗像市で、平成29年(2017年)7月には豊前市で結成されました。定期的な訓練を実施して団員の消火技術等の向上を図りながら、平日昼間の地域の安全・安心を確保するために努力しています。

自主防災組織の活動を理解しよう

自主防災組織は、平常時は災害に強いまちづくりを目指して、防災に関するさまざまな活動を展開します。災害発生時には、地域住民の命を守り、被害の拡大を防ぐために行動します。自主防災組織の活動の意義を理解し、みんなで協力して地域の防災活動に取り組みましょう。

平常時の活動

防災知識の普及・啓発

防災についての正しい知識を地域住民に普及させるために、防災講演会といった防災に関連したイベントなどを実施します。



地域内の防災環境の点検

防災の基本は自分たちの住むまちを知ることです。地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出し、優先順位を決めて改善します。



防災資機材の整備・点検

災害発生時の各種活動に使用する資機材を準備します。日頃から不備や故障などがないか点検し、正しい使用法を身につけます。



▶ 備蓄する品目などは「備蓄対策編」参照

防災訓練の実施

いざというときに正しい行動が取れるように、災害の発生を具体的に想定した防災訓練を定期的 to開催します。

▶ 防災訓練のポイントは18-19ページ参照



災害時の活動

情報の収集・伝達

気象台や「防災メール・まもるくん」などから情報を収集するほか、公的防災機関と連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を住民に伝達します。また、地域の被害状況などを取りまとめて防災機関に報告します。



初期消火活動

出火防止や初期消火に取り組み、危険な火災現場から住民を避難誘導します。消火活動は消防隊や消防団が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐのが目的です。

▶ 初期消火のポイントは24-25ページ参照



救出活動

負傷者や倒壊した家屋の下敷きになった人などを救出・救助します。危険を伴うため、二次災害に十分注意しながら作業に当たります。



医療救護活動

大災害時には大量の負傷者が出るため、すぐに医師に治療してもらうのは困難です。救護所に搬送して、救護班のメンバーが応急手当てを施します。

▶ 応急手当ての方法は30-31ページ参照



避難誘導活動

住民を避難場所などの安全な場所に誘導します。避難経路は災害の状況によって変化するので、防災機関などからの正確な情報に基づいて安全に誘導します。



給食・給水活動

食料や水、応急物資などを被災者に分配します。必要に応じて、炊き出しなどの給食・給水活動を行います。



防災訓練に参加しよう

防災訓練は、いざというときに素早く的確な対応を取れるようになることを目的に、自治体や自主防災組織などが協力して開催しています。最近、形式・内容などをいろいろと工夫した訓練も増えています。防災訓練には積極的に参加して、地域防災力の向上を目指しましょう。



防災訓練に参加するメリット



- 実際の災害に近い体験ができる**
避難場所や避難経路を実際に確認でき、災害時に素早い判断ができるようになる
- 地域の防災対策の現状などが理解できる**
地域の防災対策の現状、課題などが具体的に教えてくれる
- 災害時の対応法が習得できる**
応急手当ての方法、防災資機材の使い方などが体験できる
- 防災を通して多くの人と知り合える**
地域で知り合いが増えることは、災害時のスムーズな助け合いにつながる

さまざまな防災訓練

避難誘導訓練（高齢者疑似体験）



高齢者疑似体験セットを装着し、避難時に高齢者がどのような困難を感じるかを体験、支援や配慮の方法を学びます。

災害図上訓練



地域の地図を使いながら手作りのハザードマップを作成します。地域の防災資源を把握し、防災上の課題を理解します。

炊き出し（給食・給水）訓練



自治体や自主防災組織が備蓄する給食用品（ガスバーナー、大鍋）などの使用方法を習得しながら、災害時の給食・給水の方法を学びます。

避難所体験訓練



体育館などに実際に宿泊し、避難所の開設・運営と避難所生活を体験します。

▶ 「避難生活編」参照